

「産業医・かかりつけ医連携の ための診療情報提供書作成実習」 の経験から

産業医科大学
公衆衛生学教室
松田晋哉

平成26年12月13日の実習

- 東京都医師会主催
- 産業医を対象（嘱託産業医が中心）
- がんを持つ勤労者の現状とその対策について講義を行った後（高橋都先生）、事例をもとに日本版Fit noteを作成するグループ実習を行った。
- 作成結果を各班が発表し、講師がコメント

Fit Note

Statement of Fitness for work For social security or Statutory Sick Pay

Patient's name

I assessed your case on:

and, because of the following condition(s):

I advise you that: you are not fit for work.
 you may be fit for work taking account of the following advice:

If available, and with your employer's agreement, you may benefit from:

a phased return to work amended duties
 altered hours workplace adaptations

Comments, including functional effects of your condition(s):

Sample

This will be the case for

or from to

I will/will not need to assess your fitness for work again at the end of this period.
(Please delete as applicable)

Doctor's signature

Date of statement

Doctor's address

Med 3 04/10

May be fit for work taking for account of the following・・・ / not fit for work

以下のような記載が求められる。

【腰痛の場合】

- 長時間座らせなければ
- 良い椅子を与えれば

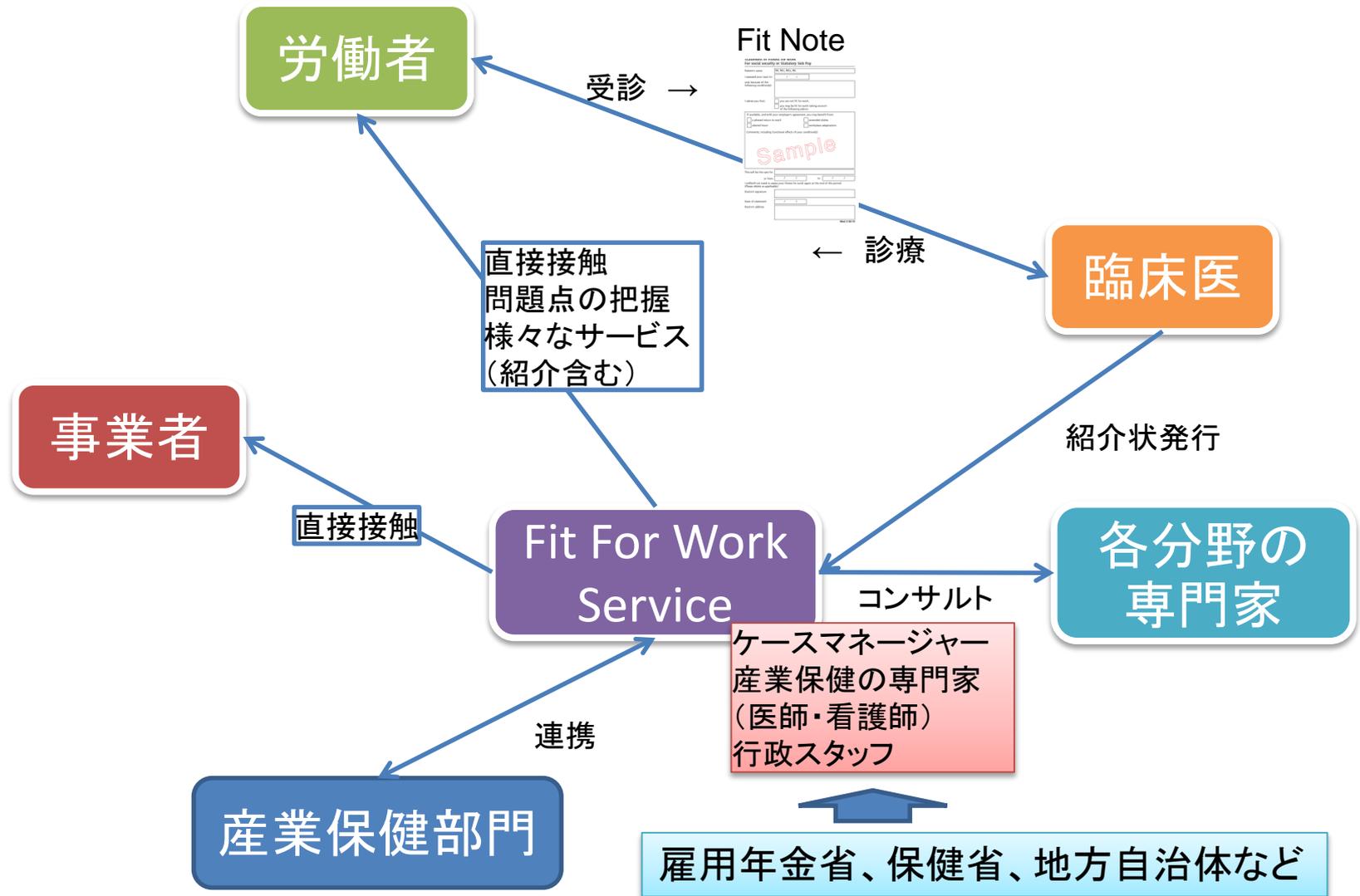
【RAの場合】

- 症状に合わせた労働負荷を考慮
- 10時～16時勤務

患者の体調が作業能力に与える影響や、治療情報を記載することが求められている。

わが国では、Fit noteのような定型的なものではなく、主治医の診断書等を基に多くの場合産業医が個別に判断している(総合的ではない)。

イギリスのFit For Workスキームにおけるステークホルダー間の関係



産業医科大学病院版 職場支援復帰に関する情報提供書

株式会社 事業所
産業保健スタッフ 宛

年 月 日

医療機関所在地

医療機関名

診療科

主治医

印

職場支援復帰に関する情報提供書

患者氏名

生年月日 年 月 日 (男・女)

(主治医記入欄)

診断書病名または症状:

復職日: 年 月 日より復職可 (定時勤務が可能)

配置転換又は業務内容調整の必要性 (無、有:)

受診経過: 主訴・初診日など

治療経過:

・ 入院治療 (無、有: 月 日 ~ 月 日)

・ 手術 (無、有: 月 日)

・ 通院治療

治療薬: (定期:) (頓用:)

リハビリ等その他処置:

コメント:

身体障害申請: なし、あり、今後予定 { 第 () 級 }

産業医科大学病院版 職場支援復帰に関する情報提供書

現在の病状・今後の方針：↵

今後通院治療が必要（無・有： 月 回）↵

（内服薬：）（リハビリ等その他処置：）↵

就業に影響を与えられると思われる症状、薬の副作用など↵

（無・有：）↵

家族等のサポート必要性（無・有：）↵

今後の病状について見通しなど ↵

完治 寛解（慢性化） 悪化↵

再発リスク（無・有：）↵

コメント：↵

就業を行うにあたり、配慮すべき事項にチェックを入れて下さい（症状の再燃・再発防止のために必要な注意事項等）↵

交替制勤務(深夜業を含む)（可・制限・禁止）

時間外労働（可・制限・禁止）↵

高所作業（可・制限・禁止）

一人作業（可・制限・禁止）↵

車両運転（可・制限・禁止）

暑熱職場での業務（可・制限・禁止）↵

重量物を扱う業務（可・制限・禁止）

振動負荷のある業務（可・制限・禁止）↵

騒音職場での業務（可・制限・禁止）

有害物、粉塵を発生する職場の業務（可・制限・禁止）↵

勤務時間の配慮（必要・不要）→（必要な場合の具体的指示）↵

制限の詳細・その他コメント：↵

本日の実習の目的

- がんを事例として就業支援情報提供書(試案)の作成を行う。
- 作成した就業支援情報提供書をグループごとに発表し、討論を行う。
- 就業支援情報提供書(試案)の改善すべき点の提案
- 就業支援情報提供書の制度化(診療報酬上での位置づけ)のための課題の整理

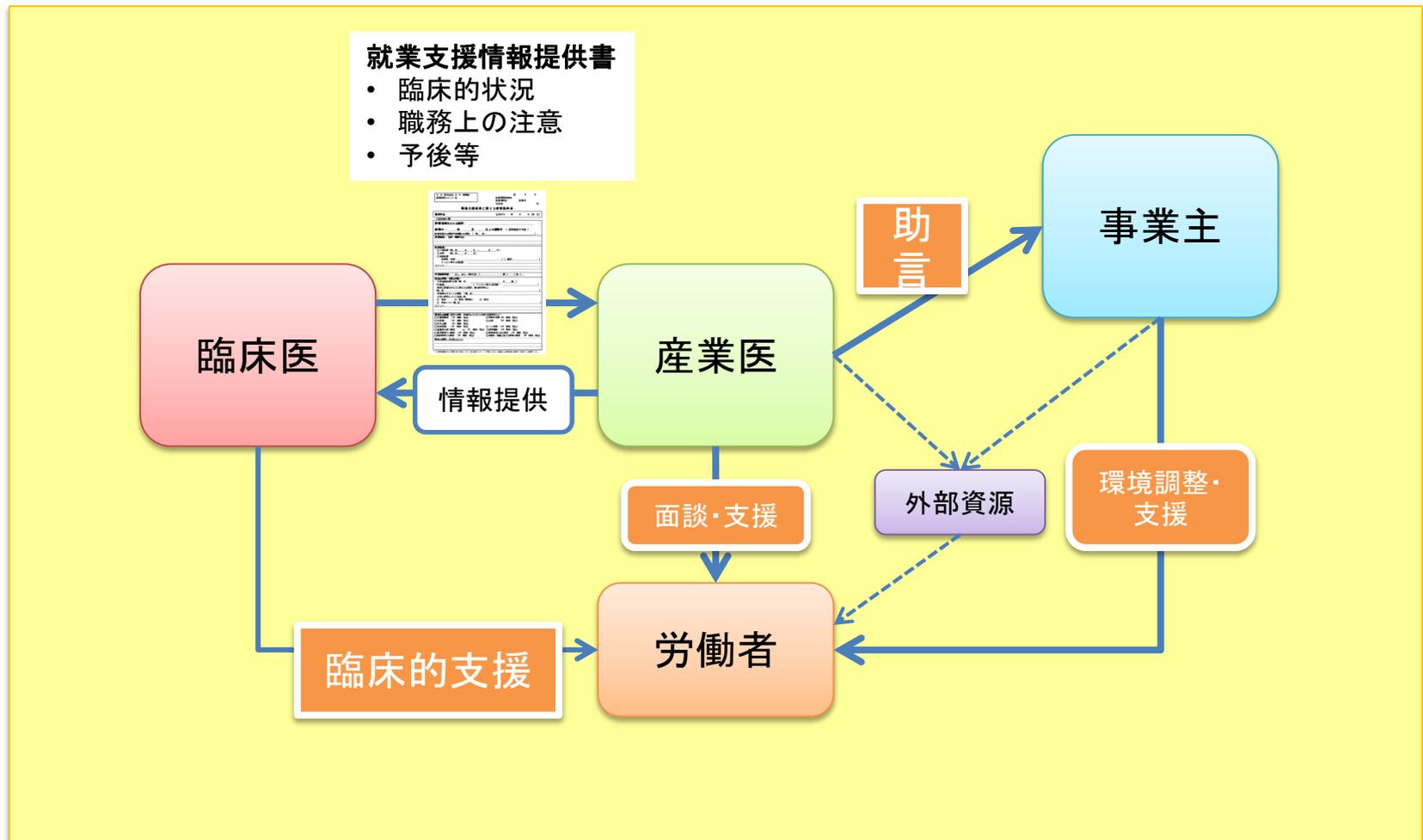
がん患者の就労支援の5つのポイント

1. 患者の仕事に関する情報の収集
2. 患者の持つ多様な悩みに医療職が幅広く対応
3. 患者の希望に応じた受診・治療への配慮
4. 仕事を継続しながら治療ができるよう、治療による仕事への影響の十分な説明
5. スムーズな職場復帰のための環境調整（上司や同僚の理解も含む）



主治医と産業医の情報共有の重要性

就業支援情報提供書の活用による復職支援



実習手順

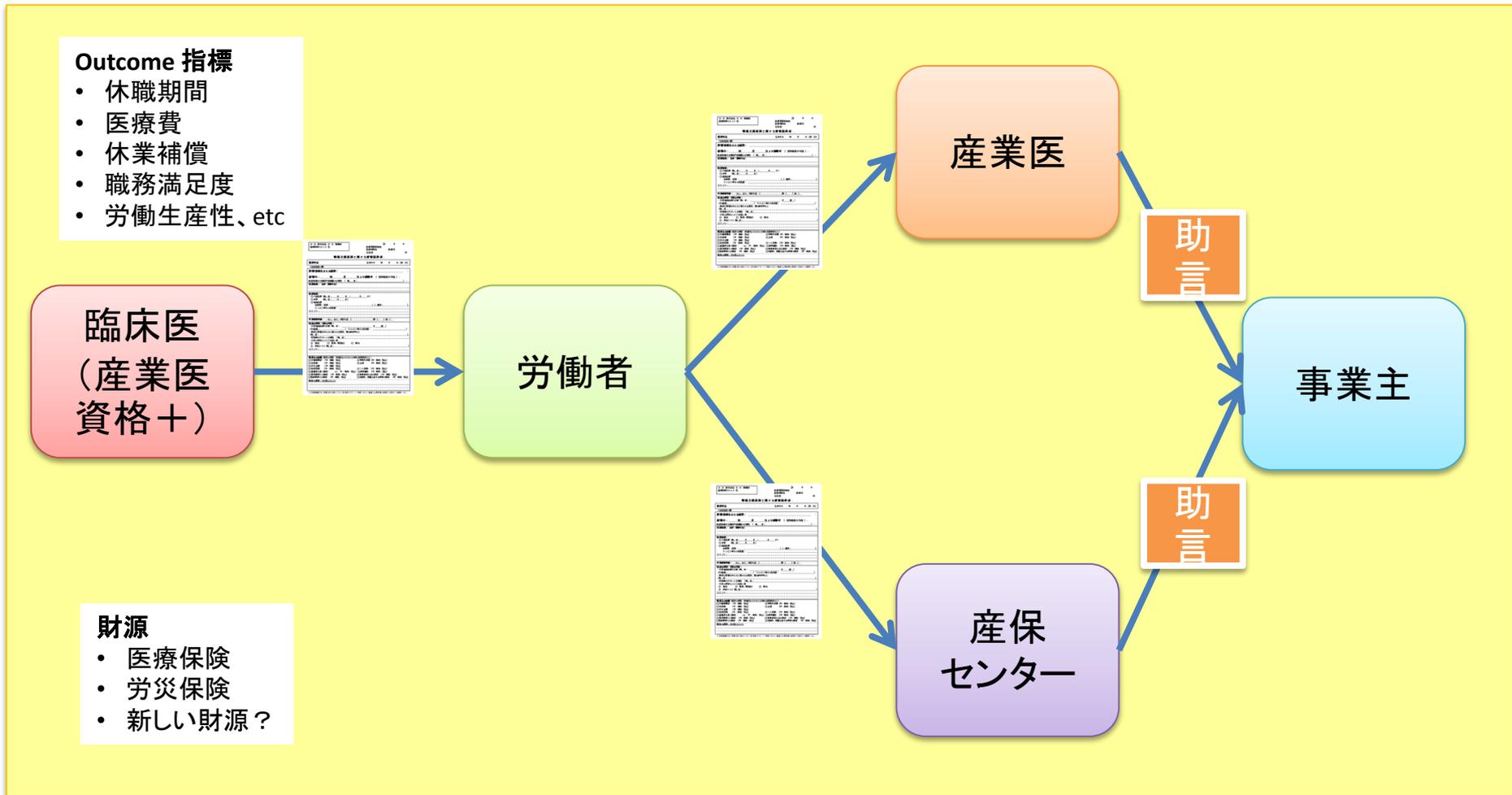
- 症例の検討

- 記載されていない事項についても、臨床家の視点からこのようなものがありうるということを考えていただく。
- 上記を総合的に踏まえたうえで、就業上の注意を考えていただく。
 - 禁止すべき作業
 - 働くことが可能になるための留意事項

まとめ

- 実習はおおむね好評であった(と思う)。
- 各職場で実際にできる対応は様々であり、公的な対応についてサマリのようなものが整理されていると良いと考えられた。
- 他の疾患(MSD、メンタルヘルス、難治性疾患、後遺症のある循環器疾患など)についても事例を作成し、このような実習を行っていくことが重要
- 研究によるエビデンスの蓄積

就業支援情報提供書(仮称)の 効果の評価研究



モデル地区の選定(医師会+地域産保+企業)